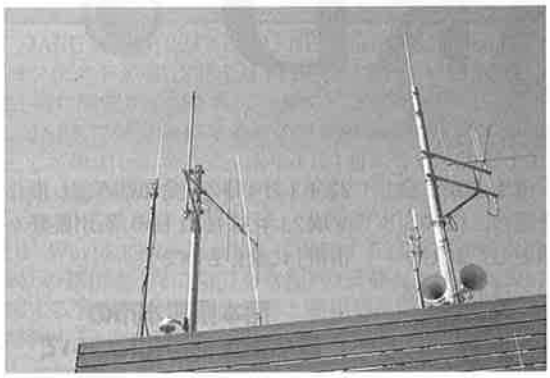
JP2YCEレピータその後

紀伊半島水害における移設運用の役割を終えて



JARL NEWS2011年秋号でご紹介しましたが，台風12号の影響による紀伊半島水害において，東海総合通信局から被災地の状況の照会を受けた，冨岡　巧三重県支部長（JR2MHV）が現地の情報を確認し，JARL東海地方本部では東海総合通信局の非常時における臨機の対応により免許を受けて，被災地で活躍するボランティアのアマチュア無線家の連絡等に供するため，レピータ局JP2YCE（設置場所：三重県鈴鹿市，439.70MHz）を，9月10日に水害被災地の一つである，三重県南牟婁郡紀宝町の紀宝町役場屋上に臨時移設しました。

三重県と和歌山県の県境に位置する周辺の地域は極めて起伏の激しい地形で，道路や橋，そして携帯電話網を含めた公衆通信回線網が寸断した地区も多かったようです。被害を受けた近接の自治体では，「熊野市職員のアマチュア無線グループ」や「熊野無線クラブ」，そして県境を越えた和歌山県新宮市の「新宮HFアマチュア無線クラブ」等のアマチュア無線家の協力を得て，アマチュア無線を活用した，各自治体の災害対策本部の情報収集がおこなわれました。

JP2YCEレピータが速やかに紀宝町役場に臨時移設され，ハンディー機での広域通信が可能となったことで，アマチュア無線家のボランティアによる情報収集活動をより円滑におこなうことができたのです。

そして「被害状況の把握」や「公衆通信回線網などの復旧」がひととおり済み，JP2YCEレピータは「臨時開設のアマチュアレピータ」としての一応の役割を終えました。JP2YCEレピータは，東海総合通信局の免許を受け，10月19日に元の設置場所（三重県鈴鹿市白子町官有地鈴鹿高専）に戻って，これまでどおり，周辺地域のアマチュア無線家の交信に有効に活用されています。

今回のJP2YCEレピータの移設・活躍について，冨岡　巧三重県支部長は，「今回被害にあわれた東紀州の方々に対して，何か我われが可能なことはないだろうかということに始まり，多くの関係諸団体の協力を得てボランティア活動を中心とする多くのアマチュア局に利用していただきましたことは，今後の災害時における良い意味での例となりました。たまたま鈴鹿市にはレピータ局が2局稼動している特殊性もあり他の地区では同様には行かないかもしれません。その場に応じた適切な判断が必要です。この移設によりいろいろな場面で「アマチュア無線」という用語が頻繁に使用されたことが何よりも嬉しく感じました」と語っています。

朝日　（夕刊）　2011年（平成23年）10月6日　木曜日　3版　6

アマ無線 災害時に真価

台風12号 電話不通の熊野市・紀宝町

台風や地震などの被災現場で，アマチュア無線が活躍している。9月の台風12号で被害の多かった紀宝町周辺でも，個人やボランティアらの通信に役立ち，災害に備えてネットワークを作り，訓練してきた経験も生かした。

三重県南部では台風後の数日間，道路や橋が寸断され，固定電話や携帯電話が通じない状況があった。「被害状況を伝えたい」「情報が欲しい」と訴えて行き惑っている，「現場に送れて行きたい」が，手段はなかった。熊野市では，市職員らによるアマチュア無線の交信が，ひっきりなしに続いていた。

山あいの五桂町，神川町，尾鷲市の出張所では，住民の安否や海岸状況をアマチュア無線で本庁に伝えた。市職員，約9人が，災害を想定して無線のグループを作っていたのが役立った。災害対策本部に詰めていた熊野無線クラブの岡崎一郎さん（59）の自主的な応援があった。「無線家が集まって，『無線が使えるぞ』と，自分たちの技術を役に立てたい，と思った。今回は，和歌山県新宮市の家族や親戚，約30人に情報が広がった。

熊野無線クラブ」の岡崎さんは，災害直後の数日間，通信の復旧を待ちながら，市内の被害状況を伝えるため，市役所の庁舎屋上に移動，小型の無線機を設置した。携帯電話の通信が途絶えた，市内の被害状況を伝えるため，市役所の庁舎屋上に移動，小型の無線機を設置した。

「新宮HFアマチュア無線クラブ」の大川正さん（68）は，「現場，現地の，南部，南紀，熊野市，南部，南紀，熊野市，南部，南紀，熊野市